

令和6年度自己評価書

学校名 橋本市立あやの台小学校

校長名 丸山 修

作成日 令和7年2月2日

1 今年度の教育目標

今年度の学校教育目標:進んで学び 思いやりのある たくましい子の育成

今年度の研究主題 :自ら学び続ける児童の育成 ~ 一人ひとりの学びを大切にした授業づくりを通して ~

2 今年度の重点目標

I 豊かな心の育成

- ①仲間づくり
- ②読書の推進
- ③態度教育の重視と推進
- ④なかよしアンケートの実施

II 確かな学力の向上

- ①学習規律・生活規律の確立と定着
- ②子どもがなぜを追求する楽しさを感じる授業づくり
- ③ESDカレンダーに基づく実践(カリキュラムマネジメント)

III 健やかな体の育成と安全教育の推進

- ①体力の向上
- ②児童の健康管理
- ③事故の未然防止

IV 地域とともにある学校づくり

- ①共育コミュニティづくりの取組への参加・参画
- ②学校の取組の積極的な発信
- ③防災教育の推進

3 評価項目の取組及び達成状況

評価項目	具体的方策	取組の達成状況	総合評価
I 豊かな心の育成	①仲間づくり ・子どもの活動を中心に据えた学級経営に努める。 ・特別活動の内容の充実、めあてと振り返りの共有化を進める。 ・児童会活動(委員会活動)を活性化させる。 ②読書の推進 ・朝の学習の時間の読書タイムを設定、学級文庫の充実・活用、家読(うちどく)の実施。 ③態度教育の重視と推進 ・規範意識の向上と「挨拶」、「態度」、「学習の姿勢」に取り組む。 ・道徳の授業を充実させる。	児童に、相手の気持ちを考えて行動する事や自分に課された仕事に熱心に取り組むなど集団の中でのよりよい振る舞いについて指導を進めることで多くの学級では安定した学級経営を行うことができた。しかし、児童との意思疎通がうまくいかず、児童を主体とした学級経営に苦勞したクラスもあった。児童会活動・縦割り活動については、イベント的なものではなく、児童主体の取組となるよう教職員全体で目的を共有し、取り組むことができた。委員会活動においても、さらに児童の主体性を育てられる取組に変えていく必要がある。 朝の学習時間の「読書の時間」や学級文庫の定期的な入れ替えなど、子ども達が進んで本が読めるように、年間を通して取り組んだ。また、家読(うちどく)に取り組み、家庭内での読書活動についても向上してきている。 学習規律、生活規律、態度教育について改善はされてきている。挨拶の仕方については、集会	B

	<p>④なかよしアンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に実施し、児童の実態把握に努める。 	<p>がある度に話をしたことで、児童会もみんなが元気に挨拶ができるように「あいさつ運動」するなどの取組が見られた。また、学校施設の使い方やルールの順守など6年生が下学年に伝えるなど、自主的な活動も見られた。</p> <p>「なかよしアンケート」を定期的に行い、児童同士の関係性について把握するように努めたが、いじめ事案を早期に発見できず、児童間での話し合いに収まらず、保護者も交えた対応になってしまった。いじめの早期発見、指導に生かせるよう、教職員でもアンケートに取り組ませる際の児童への伝え方を再度検討していきたい。</p>	
<p>II 確かな学力の向上</p>	<p>①学習規律・生活規律の確立と定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話をしっかりと聞く姿勢を養う。 ・学校全体での指導を徹底する。 <p>②子どもがなぜを追求する楽しさを感じる授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考の流れを想定し、児童の問いを生む授業を組み立てる。 <p>③ESDカレンダーに基づく実践(カリキュラムマネジメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD カレンダーを修正しつつ、実効性のあるカリキュラムマネジメントに努める。 ・自己とのつながりを感じ、価値観や行動が変容する授業づくりを進める。 	<p>学習規律を守ることを念頭に置きながら取り組んだことで、学習に集中して向き合うことができる学級が多く見られた。しかし、仲間づくりがうまくいかなかった学級については、学級の雰囲気やざくしゃくし、授業態度にも影響を与えていた。今年度中に早めに改善していかなければならない。</p> <p>算数科を中心とした「個別最適な学び」を研究テーマとし、実践を進めた。児童一人一人が課題意識を持ち、「なぜそうなるの?」という問いが生まれるような課題提示する際、時間をかけすぎる傾向がある。今後も引き続き研鑽していく必要がある。また、タブレットの使用率については、橋本市内小学校の中で一番となり、積極的に活用できていた。自主的に調べたり、考えを整理したりできる児童が増えてきた。さらに有効なタブレットの活用について実践を進めていく必要がある。</p> <p>教科横断的な取組ができるようESDカレンダーを作成し、カリキュラムマネジメントを行っているが、年度途中で大きく方向転換した学年もあった。どのような力をつけさせるのか再確認して行く必要がある。</p>	<p>A</p>
<p>III 健やかな体の育成と安全教育の推進</p>	<p>①体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にした指導計画に基づく授業を実施する。 ・体力テストD、E判定児童も楽しく運動に取り組める実践を行う。 ・休憩時間を活用し、健康の保持増進と体力の向上に取り組む。 	<p>教科体育では、年間指導計画に基づいて単元学習を行い、学校全体として系統的に学習を進めることができた。動画を見せたり、データを活用したりと、ICT 機器を活用し、児童にとって分かりやすい指導を進めることで、運動が苦手な児童も目的意識をもって活動できた。</p> <p>教科外活動では、きのくにチャレンジランキングへの取り組みや児童会の縦割り活動でのリレー大会など、教科体育とは違うアプローチでスポーツに接する体験をさせることができた。ポッ</p>	<p>B</p>

	<p>②児童の健康管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防・学校安全に努める。 ・養護教諭や保護者との確実な連携に努める。 <p>③事故の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設、設備の安全点検を行う。 ・学校生活のルールやマナー等の指導を徹底する。 	<p>チャヤダブルダッチロープなども購入し、児童がいろいろなスポーツに興味や関心をもち活動できた。</p> <p>施設や設備の安全点検については、年1回PTA、年3回教職員が行った。補修個所について早期対応もできた。日々指導を行ってきた学校生活のルールの順守については、廊下を走るなどまだまだ達成できていない部分があるので、継続して全教職員で指導を進めていく。</p>	
<p>IV地域と共にある学校づくり</p>	<p>① 共育コミュニティづくりの取組への 参画・参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共育コミュニティの取組に参加する。 ・自治会と連携した行事・取組に参画する。 ・地域ボランティアとの連携を充実させる。 <p>② 学校の取組の積極的な発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP や学校だより、学年通信、PTA広報紙等で、積極的に発信する。 <p>③ 防災教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内における防災教育や、地域と協働で取り組む防災教育を推進する。 ・避難訓練、引渡訓練、自治会と協働した防災キャンプを行う。 	<p>今年度、「あやの台フェスタ」が自治会主催で実施され、教員も参加・参画することができた。地域の方々に支援していただくだけでなく、今後も地域の一員としての立ち位置を意識し、地域参画できればと考える。また、共育コーディネーターと教職員が連携して、「子ども応援隊」の皆様や保護者の方々など、多くの皆様に協力を得ながら、教育実践に取り組むことができた。この活動そのものが、学校を核としたコミュニティづくりへの参画・参加であるとともに、啓発・情報発信になっている。</p> <p>学校 HP や学校だより、学年通信、PTA広報紙等で学校での取組を積極的に発信した。学校だよりについては、昨年度途中から地域回覧していただき、学校の様子を少しでも知っていただく機会になっていると考える。</p> <p>昨年度から防災キャンプは、自治会主導で開催していただいている。今年度は、昨年度以上に工夫を凝らしていただき、6年生全員が参加でき、実りのある学習の場となった。今後、地域に返していけるような活動になればと考える。</p>	<p>B</p>

4 保護者アンケート集計結果との比較から見てきた成果や課題

■ピックアップ項目

子どもや保護者の皆様が学校生活や学習についてどのように感じているのか、特に学校として重要に考える項目をピックアップした。

<学校は楽しい>

	保護者		子ども	
	R5	R6	R5	R6
よく当てはまる	58.6	60.0	68.1	69.2
当てはまる	37.7	32.8	27.4	24.0
あまり当てはまらない	3.3	4.9	3.2	5.2
あてはまらない	0.4	2.3	1.3	1.6

<友達と仲良くできている>

	保護者		子ども	
	R5	R6	R5	R6
よく当てはまる	58.6	58.9	77.3	77.9
当てはまる	39.6	35.8	19.6	17.9
あまり当てはまらない	1.1	4.9	2.2	2.9
あてはまらない	0.7	0.4	0.9	1.3

<勉強は楽しい>

	保護者		子ども	
	この項目は、ありません。		R5	R6
よく当てはまる			61.2	55.5
当てはまる			32.2	32.5
あまり当てはまらない			5.7	9.4
あてはまらない			0.9	2.6

<勉強はよく分かる>

	保護者		子ども	
	R5	R6	R5	R6
よく当てはまる	28.6	35.5	60.3	61.0
当てはまる	60.8	55.1	35.6	32.8
あまり当てはまらない	10.6	9.4	3.2	3.9
あてはまらない	0.0	0.0	0.9	2.3

<子どもの学校生活に安心を感じている>

保護者	R3 後期	R4 後期	R5	R6
よく当てはまる	28.2	33.3	35.9	38.9
当てはまる	61.8	58.4	55.7	46.4
あまり当てはまらない	8.6	7.5	7.3	11.3
あてはまらない	1.4	0.7	1.1	3.4

上記の中で、子どものアンケートにおいて「学校は楽しい」「友達と仲良くできている」「勉強はよくわかる」の3項目において「よく当てはまる」が微増していることは好ましいが、4項目とも「あまり当てはまらない」「当てはまらない」が増加していることが学校として真摯に受け止めなければならない。これらの事は、保護者アンケートも同様の結果となっている。特に「子どもの学校生活に安心を感じている」項目については、ここ4年で一番悪い状況である。特に5年生において、年度当初から学級運営に対してご心配をかけている状況である。少しずつ改善してきていたものの、1月に児童間トラブルにより保護者の方々を交えての事態にまで発展してしまった。学校側の対応の不手際もあり、余計に信頼を無くした状況である。唯一、学習に関する項目については保護者の方から見た不安は少しではあるが解消してきていると見てとれる。

保護者アンケートの他の項目においても、「よく当てはまる」が増加し、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の否定的な評価も増えている。学校として子ども達、保護者の皆様にうまく対応できていない証拠だと考える。これらの内容を真摯に受け止め、改善方法を検討して、あやの台小学校児童全員が楽しく安全に登校できる学校となるよう取り組んでいきたい。

また、保護者アンケートの記述欄には学校に対する要望や意見が約40件寄せられた。学校としての方向性をしっかり伝えつつ、日頃の学校の取組、児童への指導や支援、関わりなどを謙虚に振り返り、課題解決に向けて工夫していきたい。

■保護者アンケート(対象:保護者)

○「学校の教育姿勢」

「学校に対する評価」全6項目において90～97%の方が肯定的(「よく当てはまる」「当てはまる」)に評価いただいている。しかし、昨年度と比較して、6項目のうち5項目において、否定的な意見(「あまり当てはまらない」「当てはまらない」)が増加している。その中でも「教職員の指導は適切である」「学校は、保護者の声を真剣に受け止めようとしている」「学校は保護者への情報提供に努めている」の3項目においては、それぞれ7.9%、7.9%、9.4%の方が学校の対応に問題があったとご指摘いただいているということである。これらの数値とともに、具体的に示していただいた記述アンケートについても全教職員が真摯に受け止め、改善できるように取り組まなければならない。

○「子どもの学校生活」

「子どもは意欲的がんばっている」「学習内容が分かり基礎的な学力がついている」の2項目で、昨年度より肯定的意見が増えている。しかし、学校として一番大切にしていかなければならない「子どもは楽しそうに学校に行っている」「子どもには仲の良い友達がいる」「子どもの学校生活に安心を感じている」の3項目については3.5～6.3ポイント減少している。特に「子どもの学校生活に安心を感じている」については、「あまり当てはまらない」が11.3%(昨年度7.3%)「当てはまらない」が3.4%(昨年度1.1%)であった。学校に安心して登校し、安心して学び、安心して友達と遊べる場にするには、学校として最優先しなければならない職務であると考えられる。それらを確保して初めて学力が向上していくこととなると再認識し、保護者の皆様からの意見をしっかりと受け止め、対応し、熱意をもって子ども達に向き合いたい。

○「家庭教育等」

家庭での教育についてみると、8項目中5項目で、肯定的な意見が減少している。これは、コロナ以降の世の中の変化が影響していると考えられる。特に昨今の物価高による生活全般への影響が大きく、日々忙しい生活を送っていることも要因の一つである。学校行事においても交通費(バス代)の高騰による家庭負担の増加は著しい。

一方、「家庭でテレビやゲームの時間のきまりを決めている」については、76.2%(昨年度74.3%)と1.9ポイント改善されている。これは、小学生の間でも気になっている SNS 等のトラブルも関係してきていると考えられる。また、「子どもと一緒に読書をするなど、読書に親しむ習慣をつけている」については、肯定的な回答が24.9%から30.9%と6ポイント増加した。家読(うちどく)に取り組み、読書を通じた親子のコミュニケーションを受け入れてくださった成果だと思われる。今後も、家庭と連携した生活習慣づくりの取組や読書活動を進めていく必要がある。

○「地域コミュニティ」

「地域行事などに子どもと一緒に参加するようにしている」で58.5%が肯定的な回答で、昨年度より2.1ポイント上昇している。特に「よく当てはまる」については、6.0ポイントの増加である。今年度、自治会が中心となった「あやの台フェスタ」や昨年度から主催していただいている「防災訓練」に多くの方が参加して下さっていたように思われる。来年度以降も自治会と連携して取り組んでいきたい。

5 今年度の取組の成果と課題・改善方策

本年度、目指す児童像を中心に据えられるようスクールプランを刷新した。簡略化した「スクールプラン」により、職員一人一人が日々の実践の中で意識しながら取り組めると考えたからである。重点目標まで大きく変えてしまうとこれまでの積み上げてきたものとかげ離れてしまうため、具体的方策等は再編しなおした。

しかし、年度当初に共有する時間をしっかりと取らなかったため、年間を通して、そして全職員で徹底して取り組むところに課題がみられた。特に、本校の特徴でもある ESD の取組をどのように日々の指導に盛り込んでいくのか全職員で検討し、目指す児童像に近づけるよう来年度に向けて「スクールプラン」の具体的方策に改善を加え取り組んでいきたい。

(1) 仲間づくり

- ・ 学校生活の基本である仲間づくりについて、子どもの活動を中心にして取組を行ってきた。担任による取り組み方の違いもあり、年度当初からトラブルが続いた。子ども達がスムーズに学年移行する際に学級経営の基本的な部分について、学校として1つのスタイルを決めていかなければならないと痛切に感じた。特別活動の中でも特に児童会活動については児童会を中心とした取組を活発に行えた。児童会主催の季節行事については、一つ一つの取組の目標を明確に持たせ、活動することができた。また、委員会主催の縦割り行事も開催でき、来年度以降のさらなる活躍を期待している。
- ・ 読書については、朝の学習の時間の活用や学級文庫の充実、そして家庭の協力を得ながら実施した「家読（うちどく）」の実践を進めることができた。「家読」については、保護者から賛否両論あるが、学校としては効果があったと考える。来年度も継続して取り組んでいきたい。
- ・ 態度教育については、「あいさつ」「返事」「言葉遣い」「聞く態度」「はきものをそろえる」など教職員の意志統一を図り、学習規律、生活規律、態度教育について、重点的に取り組んだ。また、児童会や代表委員会から全体へ主体的に呼びかけが行われ、個人によって差異はあるものの、その効果が出てきている。今後もさらに粘り強く続けていきたい。
- ・ 「なかよしアンケート」を実施した後、児童からの聞き取りには時間をかけて対応した。丁寧に聞き取りを行うことで、保護者との連携も取りやすくなり、事後指導もスムーズに行えた。しかし、年度後半の児童間トラブルについては、その学年のアンケートが機能をなしていない状態であった。来年度に向けて、その結果を職員で共有し、アンケートの重要性について児童にどのように理解させて取り組むか検討が必要である。

(2) 確かな学力の向上

- ・ 学校生活を送る上での絶対条件である学習規律について、全学級で徹底的に取り組んだことで、特別支援学級を含む多くの学級で、姿勢よく座って話を聞く姿がみられるようになった。今後全学級で同じように取り組めるように体制をしっかりと整えていかなければならない。
- ・ 今年度も研究は「算数部会」と「ESD 部会」の二本柱で行った。それぞれの部会で研究授業を行ったことで、授業力向上に加え、学校全体でどのように取組を進めていくのか研究協議の度に意見交換を行うことができた。
- ・ ESD カレンダーによるカリキュラムマネジメントについては課題が残っている。今年度の実践の評価を行い、来年度に向けてESDを視点とした児童に付けたい力を設定・共有し、実践していきたい。

(3) 健やかな体の育成と安全教育の推進

- ・ 新体力テストで課題となっている項目に対し、体育科の日々の授業に取り入れる工夫をしていく必要がある。今後、楽しく体を動かし、体力向上できるような取組を検討し、学校全体として実践していきたい。

(4) 地域に開かれた学校づくり

- ・ 共育コーディネーターと教職員が連携して、あやの台小学校の教育に多くの方々に支援いただいている。低学年には計算力定着の取組、高学年には家庭科支援、図書室での読書啓蒙活動など、いろいろな取組をしていただいた。来年度も連携をとりながら進めていきたい。
- ・ 今年度は自治会主催の防災キャンプに加えて、あやの台フェスタを開催していただき、地域と学校が連携をとりながら活動を進めることができた。地域の大人が地域のために行動する自治会の方の姿は、地域の一員としてのモデル像であり、子どもたちにとって将来に向けての貴重な市民教育の機会になったと感じている。学校側も地域の一員として、学びを発信しながら、今後も継続して取り組んでいきたいと考えている。